

# 本会が設立された頃

前東京都立航空工業短期大学長

初代会長 徳丸芳男

本会の発展はまことにめざましい。堅実に、熱心に、力強くそして和気に充ち満ちて進展し続けていることは、全く比類を見ないところである。いまや、わが国の最も有力な会になってきている。本会を、わずか10年でここまで育成してこられた会員各位ならびにその世話された委員・役員各位に、心からの感謝を捧げるものである。

本会のような会は、発展しにくいものである。リーダーだけが熱心でも、それだけでは何とも発展のしようがない。全員が熱心でなければ成り立たない。しかも、みんながそれぞれ骨が折れる努力を日々に積み上げてゆかなければならない。そうした結果、一銭の利益があるわけではなく、努めれば努めるほど、時間と金を費やす。

会の性格は崇高である。自分が立派になり、生徒が立派になり、学校が立派になり、そしてわが国工業教育を立派にするのである。崇高な目標に近づくには、非常な努力をたゆみなく続けなければならない。だから、この種類の会はなが続きしにくい。3年間も続くのは珍しい方である。ところが本会は、10年間、年とともに発展し、今後ますます発展する 態勢と 気運とを 確立されてきた。私は会員各位の偉大な精進に、ただただ感激するばかりである。

本会は、さらに数年早く創立されているべきものであった。創立にブレーキをかけたのは私である。創立総会だけ盛大に済ませ、あと次第にしぼんで行くような会になっては困ると考えたからである。

工業学校から高校に移行する時代は、指導要領

を始め、各科目の指導内容についての研究が行なわれた。国・公・私立合同で、非常な勢いでこの膨大な研究に取り組んできた。その多勢のメンバーは、みな現在の本会のメンバーと同じである。本会の設立が各方面から叫ばれてきたのは、この時分からであったと思う。しかし私は、この熱意にブレーキをかけ続けること数年に及んだ。

その頃の研究会は、上部機構や役所からの依頼や補助によるものが、ほとんどであった。しかしわれわれの研究会は、会員各自が自分の会として育て、自分で運営する自主性に富んだ会でありたいと思っていた。これはかねてからの念願である。そこで、まず会が自立するだけの基礎作りから始めていただいた。他からの援助がなくても会の仕事ができるだけの態勢を整えてから、設立に取りかかろうとする算段である。援助を受けて事業をすれば、援助の目標に精を出さなければならないのは当然である。援助を拒むわけではないが援助してもらおうとの依存心のない会でもありたいと念じたわけである。

年月の経つにつれて、本会設立への先生方の熱望はいよいよ高まってきた。そして31年2月8日安田工業高校のご厚意によって、同校で発会式を挙げるに至った。この前年ごろには、先生方の努力がみのって、もう大丈夫というところまできていた。したがって私のブレーキも効かなくなるしブレーキの必要もなくなってきた。私が、まだまだと構えているうちに、圧力がどんどん高まって自然点火して生まれたのが本会である。だから、本会設立の功労者は、熱心な努力を重ねて基盤を養ってこられた先生方であって、決して私ではない。